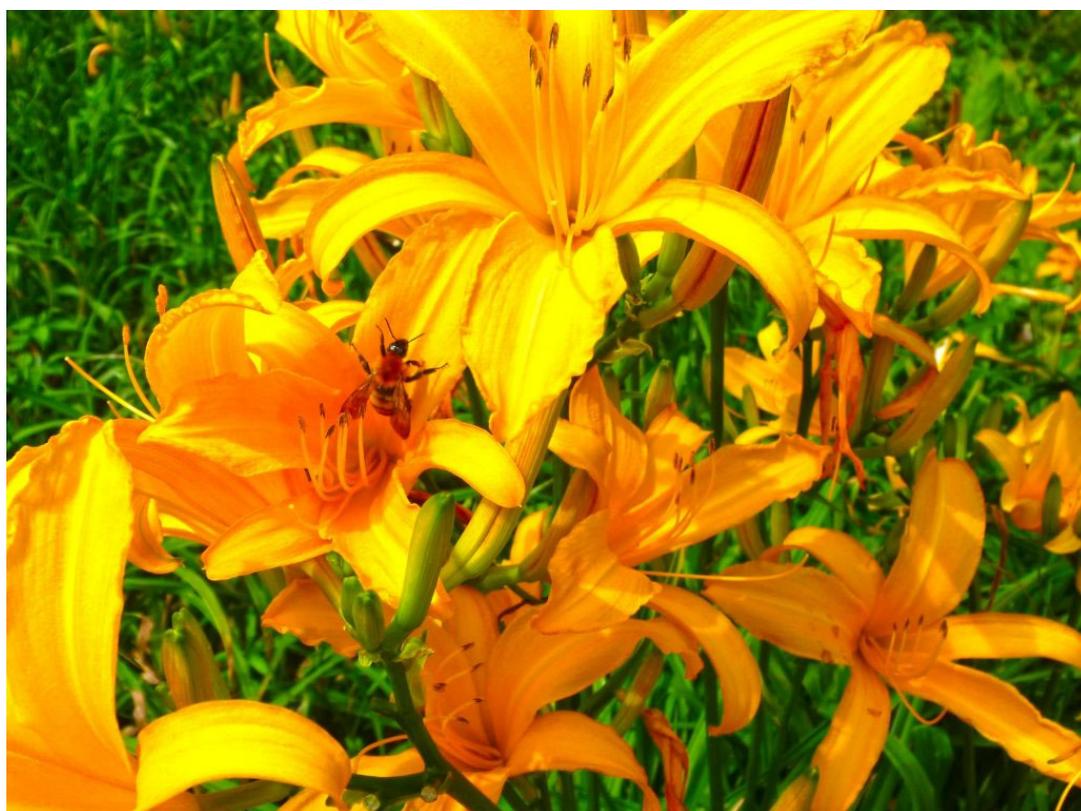


環境活動レポート（令和5年度）

（対象期間：令和5年7月～令和6年6月）



奈良順建設株式会社
代表取締役社長 奈良信幸

作成日：令和6年10月25日

ごあいさつ

弊社は、創業以来、地域の総合建設会社として、国土基盤整備の事業活動を通じ、地域社会の発展に努めてまいりました。

しかしながら、近年、地球環境問題・エネルギー問題が注目されるようになり、建設事業においても、環境配慮への要求が一層高まっている現状を踏まえ「エコアクション21」に取り組むことで、事業活動のさらなる環境負荷低減に挑戦し、新たな環境配慮型の地域社会づくりに貢献してまいりたいと思います。

奈良順建設株式会社
代表取締役社長 奈良 信幸

I 環境方針

奈良順建設株式会社環境経営方針

<環境理念>

奈良順建設株式会社は、国土基盤整備の事業活動（土木、住宅等の設計、施工、施工管理監督）を通じて、建設業の社会的使命と役割を深く認識しながら、技術の研磨と向上、経営体質の強化のため課題とチャンス进行明確化し、環境経営を推進し、地域社会に貢献することを目指しています。

<環境保全への行動指針>

1. 地球温暖化防止のために、二酸化炭素排出量の削減を推進します。
 - ①節電・節燃・エコドライブを徹底し、使用エネルギーの削減に努めます。
 - ②当社敷地内の緑化を推進します。
2. 廃棄物削減と資源の有効利用に取り組みます。
 - ①建設現場における資源の有効利用と、建設副産物の適正な処理を徹底的に行い、産業廃棄物の削減に努めます。
 - ②一般廃棄物については、全社をあげて分別・回収を徹底して行い、資源の有効利用に努めます。
 - ③建設資材は可能な限り再生資材等を使用し、グリーン購入に努めます。
3. 水使用量の削減に取り組みます。
 - ①建設現場での水利用には、上水道に頼らない適正水利用に努め節水します。
 - ②事務所等における、水の使用方法を適正化し節水に努めます。
4. 環境保全に配慮した事業活動に取り組みます。
 - ①環境に配慮した施工・工法を推進し、騒音・振動・粉じん・濁水等の低減に努めます。
 - ②建設現場での化学物質の抑制に努めます。
5. 地域での清掃ボランティア等、社会貢献活動を積極的に行うことに努めます。
6. 環境関連法規等や当社が約束したことを遵守し、環境経営の継続的改善を誓約します。
7. 環境への取り組みを環境活動レポートとしてとりまとめ公表します。

制定日：平成23年 7月 1日
改訂日：令和 2年 7月 1日



奈良順建設株式会社
代表取締役社長 奈良 信幸

II 組織の概要

1 名称及び代表者名

奈良順建設株式会社 代表取締役社長 奈良 信幸

2 所在地

本社・事務所 青森県つがる市木造桜川2-8
作業所 青森県つがる市木造桜川2-18
機材置場 青森県つがる市森田町上相野柁木19番7
資材置場1 青森県つがる市森田町下相野野田11番
資材置場2 青森県つがる市柏上古川八重崎155・156番

3 環境管理責任者及び担当者連絡先

責任者 工事部長 斉藤 透 TEL: 0173-42-3442
担当者 成田光正 TEL: 0173-42-3442

4 事業活動の内容

特定建設業青森県知事許可(特-4)第6639号

建設業の種類 土木工事業 とび・土工工事業 石工事業 鋼構造物工事業
舗装工事業 しゅんせつ工事業 塗装工事業 水道施設工事業
解体工事業

一般建設業青森県知事許可(般-4)第6639号

建設業の種類 建築工事業 管工事業

除雪業務委託

5 事業規模 (令和5年度)

資本金 4,000 万円
工事件数 61件
売上高 44,580 万円

項目	本社	作業所	機材置場	資材置場1	資材置場2
従業員	20名	無人	無人	無人	無人
延べ床面積	69.66m ²	98.28m ²	2,213.00m ²	759.01m ²	7,701.00m ²
備考					

6 事業年度 令和5年度 (R5. 7. 1 ~ R6. 6. 30)

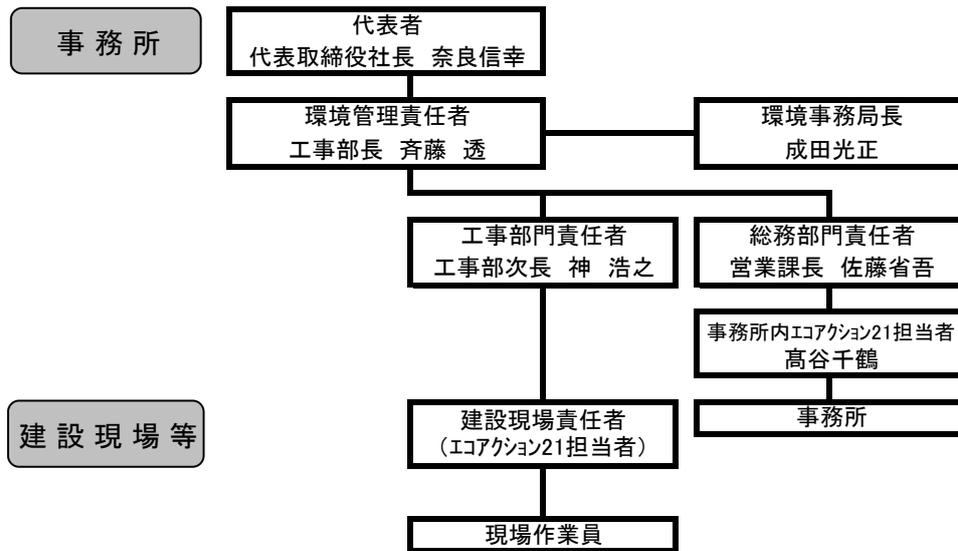
7 対象範囲(認証・登録範囲)

奈良順建設株式会社の全活動、全組織

8 環境活動レポートの対象期間

令和5年7月から令和6年6月まで

実施体制図



環境経営システム 役割・責任・権限表

	役割・責任・権限
代表者 代表取締役社長 奈良 信幸	① 環境経営に関する統括責任。 ② 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備。 ③ 実施体制の構築。 ④ 環境経営方針の作成。 ⑤ 代表者による全体の評価と見直し・指示 ⑥ 経営における課題とチャンスの明確化
環境管理責任者 工事部長 斉藤 透	① 環境システムの構築、実施、管理。 ② 問題点の是正、予防処置の指示・確認。 ③ 環境関連の外部コミュニケーション。 ④ 緊急事態への対応のための手順書作成テスト、訓練の実施、記録の作成。 ⑤ 代表者への実績報告。
環境事務局 成田 光正	① 環境管理責任者の補佐、EA21の事務局。 ② 環境目標、環境活動計画書原案の作成。 ③ 環境活動チェック表等の実績集計。
部門責任者 工事部次長 神 浩之 営業課長 佐藤 省吾 建設現場責任者	① 所轄事項について環境経営システムを実施し、維持する。 ② 環境方針の部内への周知。 ③ 教育訓練の実施。 ④ 環境活動計画の実施及び達成状況の報告。
全従業員	① 環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚。 ② 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加。

Ⅲ、環境目標とその実績

1 主な環境負荷の実績

表1、主な環境負荷等の実績

項目	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
購入電力の使用量	kwh	29,237	29,546	29,235
灯油の使用量	L	6,298	6,332	6,195
都市ガスの使用量	Nm ³	-	-	-
LPGの使用量	kg	127	145	138
ガソリンの使用量	L	10,480	10,275	10,118
軽油の使用量	L	46,579	44,911	44,425
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	175,987	169,413	168,051
一般廃棄物排出量	kg	279	274	269
産業廃棄物総排出量	t	1,438.59	2,290.32	2,240.82
建設リサイクル(再資源化率)	%	100	100	100
水使用量	ℓ	362	366	361
化学物質の使用量	kg	0.03	2.00	11.14

※購入電力の二酸化炭素排出係数は東北電力㈱の調整後排出係数令和3年度0.457を用いて計算している。

※購入電力の二酸化炭素排出係数は東北電力㈱の調整後排出係数令和5年度(R5.7追加・更新)0.483を用いて計算している。

2 環境目標の設定

当社においては、環境目標については、本社事務所と建設現場について長期及び単年度の目標を設定し環境活動に取り組んでおります。表2は、全社(本社事務所+建設現場)の令和5年度から令和7年度までの環境目標を掲げました。

表2、環境目標

項目	単位	※基準値	単年度目標			5年度~7年度	
			5年度	6年度	7年度	目標値	※削減(増加)率(%)
購入電力の使用量	kwh	29,546	29,251	28,955	28,660	28,660	△3
灯油の使用量	L	6,332	6,269	6,205	6,142	6,142	△3
都市ガスの使用量	Nm ³	-					
LPGの使用量	kg	145	144	142	141	141	△3
ガソリンの使用量	L	10,275	10,172	10,070	9,967	9,967	△3
軽油の使用量	L	44,911	44,462	44,013	43,564	43,564	△3
二酸化炭素削減	kg-CO ₂	169,413	167,719	166,025	164,331	164,331	△3
一般廃棄物排出量	kg	274	271	269	266	266	△3
建設リサイクル(再資源化率)	%	100	101	102	103	103	3
水使用量	ℓ	366	362	359	355	355	△3
化学物質の使用量	kg	-	化学物質を適正に管理し、定期的に確認する。				
環境配慮型施工等の推進	件数	-	事前環境調査の実施と環境配慮型工法の採用を推進する。				
地域貢献	件数	4	4	4	4	4	-

※削減(増加)率(%)は、基準値に対する目標値の割合

※基準値を令和4年度の実績値

3 環境目標の実績

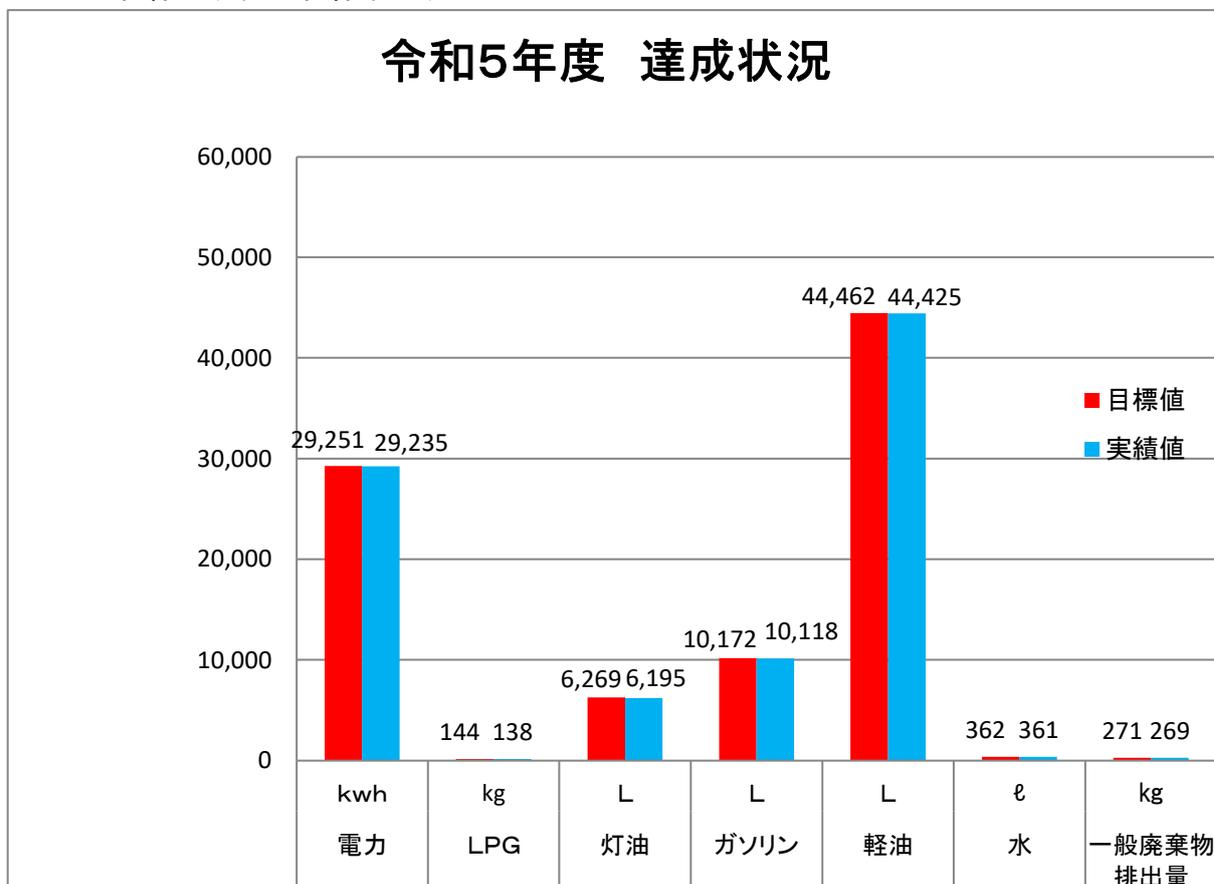
当社においては、本社事務所と建設現場についてそれぞれ環境目標を設定し、環境活動に取り組んでおります。

表3は、全社(本社事務所+建設現場)の令和5年度の環境目標の達成状況を掲げました。

表3、当該年度の環境目標の達成状況等

項目	単位	令和5年度		目標値に対する削減(増加)率(%)	評価
		目標値	実績値		
購入電力の使用量	kwh	29,251	29,235	-0.1%	○
灯油の使用量	Nm ³	6,269	6,195	-1.2%	○
都市ガスの使用量	kg	-	-	-	-
LPGの使用量	L	144	138	-3.9%	○
ガソリンの使用量	L	10,172	10,118	-0.5%	○
軽油の使用量	L	44,462	44,425	-0.1%	○
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	167,719	168,051	0.2%	×
一般廃棄物排出量	kg	271	269	-1%	○
建設リサイクル(再資源化率)	%	101	100	-	-
水使用量	ℓ	362	361	-0.4%	○
地域貢献	件数	4	4	-	○

○:目標達成、×:目標未達成



IV. 環境活動計画、取組結果とその評価、次年度の目標及び取組内容

表4 主な環境活動計画の内容

環境方針	環境目標項目	取組内容	実施状況評価	取組結果	次年度の目標	次年度の取組内容
二酸化炭素排出量削減	電力の二酸化炭素の削減	照明器具については、定期的な清掃、交換を行う等、適正に管理している	○	目標達成 目標値より16kwhの削減ができた。	基準値 29,546	本社の照明を随時LED照明へ切り替えを行っていく。 こまめな節電を継続していく。
		夏季における軽装(クールビズ)、冬季における重ね着等服装の工夫(ウォームビズ)をして、冷暖房の使用を抑えている			削減率 1	
		エアコン管理 夏季28℃ 冬季20℃			目標値 29,251	
		20～27度の場合、窓の開閉等により室温調節				
		ブラインドの利用により、熱の出入りを調節している				
		パソコン等省電力設定				
		夜間、休日は、パソコン、プリンター等の主電源を切っている				
		空調を必要な区域や時間に限定して使用している				
	照明は不必要時は消灯している					
	高効率蛍光灯等の省エネルギー型照明器具に切り替える					
車両用(建設機械)の燃料の二酸化炭素削減	建設機械等のアイドリングストップを行っている	○	目標達成 ガソリンは目標値より54ℓの削減が出来た。 軽油は目標値より37ℓの削減が出来た。	ガソリン使用量	WEB会議による移動の削減、省エネ機械の選定や工程管理の適正化に力を入れ、削減に取り組んでいきたい。	
	エコドライブ等運転方法の配慮(急発進・急加速や空ぶかしの排除、駐車中のエンジン停止等)を励行している			基準値 10,275		
	帰り荷や複数現場への共積み、乗り合いを励行している			削減率 1		
	建設機械等の過積載が行われないよう徹底している			目標値 10,172		
	建設車両のタイヤ空気圧の適正維持を行っている			軽油使用量		
	運搬計画を見直し、エネルギー消費の少ない運搬を行っている			基準値 44,911		
建設機械等や空気圧縮機、発電機、ボイラー等のエネルギー供給設備については、新規購入及び更新時には省エネルギー型機器を導入	削減率 1					
目標値 44,462						
灯油・LPG等の二酸化炭素の削減	暖房機器の温度管理をする 冬季20℃設定	○	目標達成 灯油は目標値より74ℓの削減ができた。 LPGは目標値より6Lの削減が出来た。	灯油使用量	削減努力の継続と職員の快適さも考慮し目標達成していきたい。	
	空調機については、フィルターの定期的な清掃、交換を行う等、適正に管理している			基準値 6,332		
	天井埋込形エアコンの吹き出しファンを使用し、風を攪乱させる			削減率 1		
目標値 6,269	LPG使用量					
基準値 145						
削減率 1						
目標値 144						
廃棄物排出量削減	一般廃棄物の発生抑制	資材発注時に、設計図書等を再チェックし、残余資材の発生を防止している	○	目標達成 目標値より2kgの削減が出来た。	基準値 274	リサイクル業者の利用を継続し、段ボール、空き缶、雑紙等のリサイクルに努め、排出量も同時に削減していきたい。 社内メールの活用、携帯でのグループ機能での回覧、現場での役所提出書類電子化により用紙削減率UP、ファイイルの再利用が進んでいるので、引き続き取り組んでいきたい。
		両面、集約等の機能を活用した印刷及びコピーを徹底している			削減率 1	
		印刷物を作成する場合は、その部数が必要最小限の量となるように考慮し、残部が出ないように配慮している			目標値 271	
		社内LAN、データベース等の利用による文書の電子化に取り組んでいる				
		使用済み封筒を再利用している				
		コピー機は、枚数や拡大・縮小の誤り等のミスコピーを防止するため、使用前に設定を確認するとともに、次に使用する人に配慮し、使用後は必ず設定をリセットしている				
	使用済み用紙、ポスター、カレンダー等の裏紙が活用できる紙は可能な限り利用するよう工夫している					
	紙、金属缶、ガラスびん、プラスチック、電池等について、分別回収の適正配置等により、ごみの分別を徹底している					
	再資源化対策の推進	建設現場等で発生する廃棄物を混合廃棄物としないよう徹底している	○	目標達成 現場での仮設材も再利用できるものは保管し、次の工事で利用している。	基準値 100	今後も廃棄物の分別の徹底、仮設材の再利用等に努め、排出量削減に取り組んでいきたい。
		仮設材等を再利用し、長期的有効利用できるよう配慮している			増加率 1	
発生した残余資材を再利用できるよう配慮している		目標値 103				
コピー機、プリンターのトナーカートリッジの回収ルートを確認し、リサイクルを図っている						
再利用またはリサイクルしやすい製品を優先的に購入し、使用している						
廃棄物管理票(マニフェスト)をもとに廃棄物の適正な処理を行っている						
節水・排水の適正管理	建設機械等の洗車には、排水路の水や雨水等を利用している	○	目標達成 目標値より1ℓの削減ができた。	基準値 366	今後も節水に努めたい。	
	建設機械等を洗車する場合は、泥等を落としてから行っている			削減率 1		
	手洗い時、洗い物においては、日常的に節水を励行している			目標値 362		
	洗車等に使用するホースの先には、ストッパーを付けている					
	オイルフェンスの設置等、排水の汚濁防止対策を行う					
化学物質の管理推進	化学物質を適正に管理し、定期的に確認する	○	塗料を必要分購入した。適正に処理、管理した。		取り組みを継続する	
	MSDS(化学物質安全データシート)により管理する					
製品及びサービスに関する環境配慮	建設現場等周辺的生活環境に影響の少ない時間帯での施工を行っている	○	工事で環境にやさしい施工・工法を採用し、募金、寄付金などの協賛・清掃ボランティアへの参加・事務所内外の緑化推進も昨年同様継続しており、よくできていた。		次年度も、この状態を維持しながら、環境にやさしい施工・工法の採用や、ボランティア活動への積極的参加など、努めていきたい。	
	建設現場等周辺的生活環境に影響の少ない工法を提案し、採用している					
	環境にやさしい施工や工法を採用					
	環境に関する基金・団体の設置、既存の基金・団体を支援している(人材派遣、資金面での援助、従業員の給与の端数を集めた寄付、広報活動への協力等)					
	環境配慮型工法の採用や環境配慮型施工の提案をしている					
	建設現場等の事前環境調査の実施及び対策を実施している					
地域のボランティア活動等に積極的に参加し、協力や支援を行っている						

○:評価出来る、△:まずまず評価できる、×:評価できない

表5 経営における課題とチャンスへの取組の推進

経営における課題とチャンスへの取組の推進		○計画	●実施	責任者	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	備考
工程管理の適正化の徹底	① 各工事報告・会議での人員配置計画						○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	
	② 置場の保存機械・器具等の整備・整理・清掃等				○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	
技術者評価点数の向上	③ 現場ごとの安全教育						○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	
	④ 省燃費型機械の優先的使用						○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	
	⑤ 現場事務所の改善(女性用トイレ、暖房機器等)						○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	
地域社会からの信頼性の向上	⑥ 現場近隣住民への工事内容報告等						○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	○●	
	⑦ 現場・近隣でのゴミ拾い活動				○●												
チェック実施者の評価	予定通り取り組む事ができた。		環境管理責任者の確認等	OK													

環境活動の状況



事務所周辺の緑化活動



工事現場及び事務所周辺のゴミ拾い活動



消火訓練



照明をLED化



削減ステッカー



冷暖房の温度設定



現場でのゴミ分別

V 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価並びに違反、訴訟等の有無

当社が法的義務を受ける建設業法及び建設リサイクル法等、環境関連法規の遵守状況を確認したところ、違反はありませんでした。また、過去3年間、関係当局からの違反等の指摘、住民等からの苦情、訴訟について、問題ありませんでした。

主な環境関連法規等の一覧

- | | |
|-----------|----------|
| ・建設リサイクル法 | ・廃棄物処理法 |
| ・振動規制法 | ・労働安全衛生法 |
| ・騒音規制法 | |

VI 代表者による全体評価と見直しの結果

今期の活動では中長期における環境目標を達成することができ、環境負荷削減への取り組みを継続している効果の表れだと考えております。

取り組みにおける工程管理、施工管理の効率化はコスト削減、エネルギー使用量削減に効果的に作用しており、今期では特に遠隔カメラの活用、資料の電子化、情報共有システムの活用、それを利用できるデバイスや環境の拡充といった効果が結果として現れております

今期の結果において、全ての目標を達成という結果に繋がったのは社員一人一人の環境保全に対する意識が継続している力だと実感しております。この継続を絶やさず更に向上していけるよう、今後は、働き方改革やICTを活用した生産性向上による環境負荷の軽減など、経営と両立した取り組みを推進してまいります。